

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500419		
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン		
事業所名	ジョイフル新那加 認知症対応型共同生活介護		
所在地	岐阜県各務原市新那加町28-2		
自己評価作成日	令和元年11月1日	評価結果市町村受理日	令和2年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190500419-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ベランダ散歩やボールを使った体操などの日常的な運動を通し、体力や下肢筋力の低下予防に努めています。また掃除機をかけたり、クイックルワイパーで床拭きをして頂くなどの掃除、食事の盛り付けや配膳などの調理(家事全般)においても利用者様と一緒に、出来る範囲で利用者様に行って頂けるように取組んでいます。個々の状態に応じた役割を考え、継続し取り組んで頂けるように環境を整えています。地域活動としては、駅前清掃へ参加したり、行きつけのスーパーへ利用者様と一緒に買い物に出かけており、施設内外での活動を通して人と人との繋がりを感じて頂きながら生活意欲を高めて頂けるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

従来から一体的に運営していた二つの法人を、今年4月に統合している。法人理念に基づきながら、引き続き「少子高齢社会をトータルサポートする」とし、人材育成・研鑽に努め、利用者主体の支援に努めている。また、利用者が、楽しみながら身体機能維持ができるよう、散歩や体操、レクリエーションに参加するとポイントが付く「ポイント制」を導入している。ポイントが貯まると景品と交換できるシステムで、利用者の楽しみに繋げている。食事は手作りであり、利用者のリクエストにも応えている。管理者は、職員アンケートや個別面談で、職員一人ひとりの声を聴き、働き方への配慮や労働環境改善に努め、より良い利用者サービスにつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出来る限り住み慣れた地域で生活を継続して頂けるよう、法人の理念を毎朝の朝礼で読み上げたり、事業所の理念を会議で確認しながら共有と実践につなげている。	法人と事業所独自の理念を掲示し、常に理念の意識付けを行っている。代表が年1回テレビ会議で講話を行ったり、エリアごとに職員が集まり、理念と実践について意見交換している。新人教育でも、正しく理解できるよう指導し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	駅前清掃への参加や、市民運動会などの地域行事へ積極的に参加している。また、利用者様が作った作品を地域の認知症カフェなどで展示し、地域との交流を図っている。月1回の陶芸教室は利用者様のみでなく、地域の方も参加して頂けるように開催している。	自治会に加入している。地域行事を回覧板で把握し、年4回、駅前の清掃活動に参加している。併設施設の喫茶コーナーには地域の方が集まり、交流の場となっている。5階の会議室は、地域の人も利用できるスペースとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	秋祭りなどの施設行事には地域の方を招き、地域に開かれた事業所であることを示しながら理解を得られるようにしている。実習生やボランティアの受入も、積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年に3回実施されており、事業所の取組み状況などを報告する中で、参加者より得た意見を共有し、利用者様などとの関わりを見直しながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議には、行政や地域住民代表、他サービスの利用者や家族も出席し、利用者の状況や事業所の活動報告、意見交換を行っている。ヒヤリハットや事故報告についても話し合い、会議内容を職員間で共有し事故防止に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回市の担当者が参加している。地域の情報収集に努めると共に、新たな加算の算定や資料提出などの際には市の窓口にご相談を行いながら、連携を図ることの出来る関係性がある。	市担当者とは、利用者の情報や入居状況など、常に相談ができる関係である。地域包括支援センターからは、認知症カフェ開催の連絡等で、協力関係が出来ており、運営推進会議にも担当者が毎回参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として、身体拘束を行わない指針が掲げられている。勉強会と共に、身体拘束に関するチェック表を定期的実施し、職員一人ひとりが自覚を高め、身体拘束を行わない環境づくりに努めている。	身体拘束等適正化対策委員会を立ち上げ、定期的に委員会を開催し、結果をユニット会議で報告しながら全職員で共有している。また、法人内研修でも学びながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は隔月に、「虐待・身体拘束予防チェック」で自己評価を実施し、振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会が定期的であり、虐待に対する認識を高めながら防止に努めている。事業所の会議でも振り返りを行いながら、虐待防止に対して常に職員が考える環境が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通して制度に関する理解を深めながら、併設事業所と協力し、利用者様が安心して施設を利用して頂けるように整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居退前には利用者様やご家族に十分な説明を行い、理解を得た上でサービスを開始(終了)して頂いている。利用者様の状態変化に応じて主治医などと連携を図りながら、迅速に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年毎のカンファレンスや、年2回満足度アンケートを実施し、利用者様やご家族の意見を確認する機会を設けている。面会時などでも積極的に意向を伺いながら、希望に沿ったサービス提供が行えるように情報共有している。	家族の意見や要望は、面会時や年2回のカンファレンスの際に聞いている。利用者・家族に向けての満足度アンケートを行い、調査結果を家族に配布している。要望などは、職員会議で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員アンケートを実施し、可能な限り職場環境が改善されるように検討している。また定期的な面談を実施し、職員一人ひとりのモチベーション維持と向上に繋げている。	管理者は、日頃、業務の中で職員に声をかけ、意見や思いを聞いている。また、職員アンケートを実施し、必要に応じて個別面談を行ったり、職場環境を整備する衛生委員会でも、職員の意見を聞きながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で有給休暇取得を推進しており、計画的に取得を図っている。職員一人ひとりが目標をもって業務に臨むことが出来るよう、教育システムが確立している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人事業所内外での研修や、職員一人ひとりの目標設定シートを元に、スキルアップを図っている。介護福祉士や介護支援専門員の資格取得のための支援体制も、整備されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人事業所以外への研修も積極的に行いながら、ネットワークを広げている。研修生の受入も、積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、利用者様本人と面談している。得た情報はフェイスシートに落とし込み、職員間で情報共有しながら安心して生活して頂けるようにコミュニケーションを図りながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には十分な説明を行い、事業所の方針に関して理解を得た上でサービス利用を開始して頂いている。ご家族の発言や要望などに関しては職員間で情報共有し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を把握し、利用者様やご家族からの話を元に職員間で情報共有している。検討する中で必要な支援を考え、ニーズを見極めて対応し、他のサービス利用が望ましい場合にはそちらの利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯、買い物などの家事を中心に、共に過ごす時間を大切にしながら信頼関係を築いている。利用者様一人ひとりの個別対応を考え、関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状態をご家族と共有し、ご家族の思いも汲取りながら希望に沿った生活づくりを心がけている。また季節に合わせて衣替えなどの依頼を行い、来設して頂くことで本人様との関係が途切れないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1回ご家族宛に新聞を発送し、施設での行事や本人様の状態を報告している。また希望に応じてご家族が協力のもと、(入居前から利用している)馴染みの美容院やかかりつけ医に通って頂いている。	事業所の近隣に住んでいた利用者も多く、友人・知人の訪問がある。また、併設の小規模多機能型サービスを利用している人や事業所で開催している陶芸教室の先生とも顔馴染みになっている。1階の喫茶コーナーでも、友人や家族と会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や個性を職員が把握し、本人様が納得されるように個別に対応を行っている。また、利用者様同士の関係性に応じて、リビングの席替えを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は併設の事業所へ移られる方が多く、行事などで(ご家族とも)顔を合わす機会があるため、関係性が継続している方が多い。また契約終了後も、要望に応じて相談援助をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人様の発言を「つぶやき」として拾い上げ、職員間で情報共有しながら一人ひとりの思いが実現されるように(時にご家族にも協力を仰ぎながら)検討している。	利用者の「寿司が食べたい」という声を拾い上げ、ユニット会議で話し合い、出来るだけ意向や希望に沿えるようにと、支援を実施している。利用者の意思表示が困難な場合は、普段の表情や行動から思いを汲み取り、職員間で共有しながら支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやカンファレンスなどでの情報を元に職員が状態を把握し、今までの生活スタイルを出来る限り継続して頂けるようにニーズの理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や趣味などを踏まえ、日常の様子を記録に残しながら本人様の生活スタイルを捉え、出来る限り自立した生活が維持出来るように現状把握やアセスメントに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の都合に合わせて半年に1回カンファレンスとアセスメント、3ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画書を見直している。利用者様やご家族の意見を取入ながら現状に即した支援を見出し、介護計画書に反映している。	介護計画は、利用者と家族の意見を組み入れて作成している。利用者の「できること」の継続や、「やりたいこと」「楽しみを見つけること」を重視し、専門職の意見を取り入れながら計画に反映させ、状態に合わせて見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアを実践していく中で、気付いたことなどは申し送りシートなどを活用し、情報共有に努めている。また会議でも意見交換を重ね、実施後の見直し(効果の確認)も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の現状に合わせて個別のニーズに応じながら、グループホームでの生活が困難になられた際は併設事業所とも連携し、利用者様にとって最善と思われるサービスを受けることが出来るように努支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駅前サロンや清掃活動に参加し、事業所のみならず活動の場を広げて頂き、地域住民と交流を図ることが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族対応での受診や、受診が難しい方は往診の手配を行っている。受診前にはバイタル表を用意し、普段の様子や体調の変化についても口頭でご家族や往診医に説明している。診察後の情報については共有し、健やかな生活が維持されるよう支援している。	利用者は、定期的に往診を受けている。職員が医師と一緒に回って個々の状態を説明し、診察結果の確認を行っている。整形外科などの専門医へは、家族の協力を得て受診している。急変時は、緊急対応マニュアルに沿って支援し、併設施設の看護師と連携を図りながら、利用者と家族の安心につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師は常駐していないが、併設施設内に看護師は滞在しているため、体調異変などが生じた際には速やかに連絡し、指示や助言を仰ぐ関係性が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	相談員やハウスマネージャーが中心となり、随時医療機関との調整を図っている。長期入院となる場合も、地域事業所と連携を図りながら退院時の受け入れ体制を整えており、医療機関と良好な関係が保たれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでは終末期の対応を行わないことを契約時にご家族に説明し、理解を得た上でサービス利用を開始して頂いている。カンパレンスでもその後の意向を確認しながら、いざという時のために備えて体制づくりを行っている。	契約時に、終末期ケアを行わないことを本人・家族に説明し、同意を得ている。急変時における希望の搬送先も確認している。看取りを行ってはいないが、看取り介護に関する勉強会を重ね、緊急時には適切に行動できるよう職員育成に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に関するマニュアルや、緊急時に対する定期的な勉強会が行われている。ヒヤリハットを職員間で情報共有し、危険予測を高めながら業務に臨んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施し、非常事態に対する意識付けを行っている。また地域住民を交えた機会もあり、地域との協力体制を築いている。	年2回、防災訓練を行い、その都度、報告書を提出して振り返りを行っている。訓練には、地域住民の参加を得ており、備蓄の確認を含めた食料品の試食会も行っている。台風時には、非常事態に備えて、事前にベランダや防災グッズの点検、浴槽に水を貯めるなど、様々な対応を行っている。	災害時においては、新人・現任職員を問わず、全職員が、利用者を安全に避難させられるよう、避難方法や安全確認等、統一した対応を行える実践力の向上に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの性格や人物像を理解し、個別に応じた対応に努めている。毎月マナー委員会を開催しており、マナーや接遇について職員間で認識を深めている。	日々のケアの中で、「居室への入室はノックをする」「排泄支援時の声かけは穏やかに」など、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を励行している。職員は「介護基本チェック表」で自己のケアを振り返り、適切な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な思いを汲取りながら、自己決定し易い場面づくりを心がけている。利用者様の内に秘めた思いもすくい上げることが出来るよう、情報共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを把握し、介護計画におとし込むと共に、その日の希望に応じて出来る限り応えることが出来るよう、柔軟な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や髭剃りなど、これまでの習慣を大切にしながら必要に応じてご家族に物品を依頼し、用意して頂いている。理美容については、入居前からの馴染みの美容院へ外出される方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望や意見を取り入れながら、献立を作成している。盛り付けや配膳など、個別の状態に応じて手伝って頂きながら共に行うことで、残存機能の活用にも努めている。	毎食手作りの食事を提供し、利用者は、野菜や果物の皮むき、配膳など、出来ることを職員と共に行っている。誕生日には利用者のリクエストに応えたり、おやつ作りも一緒に楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保出来るよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や食事ペースを把握し、提供している。体重増加傾向の方は、ご家族や主治医に相談しながら(活動量の増加と共に)食事面での調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、個別の状態に応じて声かけや見守りなどを行っている。口腔内に痛みなどの異変が生じた際にはご家族に連絡し、歯科受診や訪問歯科の利用を勧めている。		

岐阜県 ジョイフル新那加

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを捉え、個別にトイレ誘導している。紙パンツを当たり前とせず、状態を見極めながら布パンツへ移行するなど対応している。トイレでの排泄習慣を持ち続けて頂けるよう、支援している。	紙パンツ使用による、スキントラブルを避けるため、出来るだけ紙パンツを使用せず、トイレでの排泄を支援している。パッドの処理が難しい利用者の場合は、一部介助で支援し、利用者自身がトイレでの排泄を習慣とし、それを継続できるような支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはのむヨーグルトとヤクルトを提供し、便秘気味の方にはオリーブオイルを取り入れている。日常的に運動機会を設け、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には2日に1回のペースで、夕方の時間を中心に入浴して頂いており、毎回お湯を入れ替えている。出来る限り希望に沿えるように時間を配慮しながら、個別対応を行っている。	各居室に利用者の顔写真付きカレンダーを掛け、入浴日には印を付け、本人も一目で入浴状況が分かるよう工夫している。利用者ごとに湯を入れ替え、清潔で気持ち良い入浴を支援している。利用者と一対一での入浴支援は、ゆっくり話しが聞ける時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の拘りを踏まえながら、室内の空調や明るさを考慮している。夜間に安眠されるよう、日中の活動量の増加に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を元に内容を確認し、変更があれば申し送りをして(禁止食材など薬の副作用に関する事柄も含め)情報共有している。薬に関するマニュアルを元に、細心の注意を払い取扱っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを考えながら、生活習慣として自発的に行われるよう、洗濯物量みやカーテンの開け閉めなどを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回のモーニングや季節毎の外出、スーパーへの買い物同行、地域行事への参加など、気分転換しながら個別の希望に沿った外出が出来るように支援している。	その日の天候や利用者の体調に合わせ、行事に参加したり、買い物等に出かけている。本や化粧品などの私物購入の場合は、個別外出で対応している。墓参りや日帰り温泉、美容院などへは、家族の協力を得て、出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時には小遣いの取扱いについて利用者様に説明を行い、同意を得た上で一人ひとりの金銭を金庫で保管している。個人で金銭を所持される方もみえ、職員が見守りのもとスーパーなどでレジ精算して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙などのレクリエーションで作成した作品を、ご家族に送付している方がいる。電話を希望された際は(予めご家族の承諾を得た上で)電話をかけて頂く方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節に合った生け花などの飾り付けや壁画を設置し、利用者様と一緒に作品づくりを行っている。温度調節や音量などは利用者様の感度を意識し、設定している。	共用空間であるリビングは広く、利用者の絵手紙作品や書道、陶芸作品が飾られている。キッチンには、利用者と一緒に調理がしやすく、家庭的な雰囲気である。ソファを複数設置し、テーブルや椅子の高さは、利用者に合わせている工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる利用者様が多く、利用者様同士の関係性や意見を踏まえて座席を設けている。利用者様同士のトラブルにも注意し、一人ひとりの居場所を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレと洗面台が設置され、プライバシーを尊重した設えとなっている。入居される前から使用されている馴染みの物をご家族に用意して頂くなどし、本人様が安心して過ごせる空間づくりを考えている。	居室は広く、洗面台とトイレが設置されている。自分の居室が分かりやすい表札を掛け、部屋には写真や花が飾られている。床掃除は利用者が行うことを基本としているが、手が届かない所は職員と一緒にいき、居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況を見極めながら安全に過ごして頂けるよう、ご家族に相談しながら家具の設置や動線を確保している。		